

神経研究の進歩 総目次

1956年～1964年（1巻1号～8巻4号）

- 1巻1号 '56年1月
神経系疾患の診断法（Ⅰ）
- 1巻2号 '56年4月
神経系疾患の診断法（Ⅱ）
- 1巻3号 '56年8月
代謝障害と神経疾患（Ⅰ）
- 1巻4号 '56年12月
代謝障害と神経疾患（Ⅱ）
- 2巻1号 '57年4月
脳の生理に関するシンポジウム
- 2巻2号 '57年10月
脳腫瘍
- 2巻3号 '58年3月
第1回国際神経科学会展望（Ⅰ）
- 2巻4号 '58年5月
第1回国際神経科学会展望（Ⅱ）
- 3巻1号 '58年10月
第1回国際神経科学会展望（Ⅲ）
- 3巻2号 '59年1月
肝脳疾患（Ⅰ）
- 3巻3号 '59年4月
肝脳疾患（Ⅱ）・小脳
- 3巻4号 '59年9月
錐体外路系（Ⅰ）
- 4巻1号 '59年11月
錐体外路系（Ⅱ）
- 4巻2号 '60年1月
展望・脊髄血管障害例
- 4巻3号 '60年8月
神経化学懇話会
- 4巻4号 '60年8月
興味ある症例の臨床と病理
- 5巻1号 '60年10月
第1回神経病理懇話会
- 5巻2号 '61年5月
脳血管性障害（Ⅰ）
- 5巻3号 '61年9月
脳血管性障害（Ⅱ）
- 5巻4号 '61年12月
脳血管性障害（Ⅲ）・精神薬理
- 6巻1号 '62年3月
脳炎・膠質細胞（第2回神経病理懇話会）

- 6巻2号 '62年7月
小児神経病学
- 6巻3号 '62年9月
第4回神経化学懇話会特集号
- 6巻4号 '62年11月
神経解剖
- 7巻1号 '63年1月 ￥1,400
脳腫瘍（第3回神経病理懇話会）
- 7巻2号 '63年3月 ￥1,200
神経疫学・診断検査法
- 7巻3号 '63年6月 ￥1,400
脳研究のあゆみ
- 7巻4号 '63年8月 ￥1,200
第5回神経化学懇話会特集号
- 8巻1号 '64年1月 ￥1,200
末梢神経（第4回神経病理懇話会）
- 8巻2号 '64年4月 ￥1,200
奇形性神経疾患
- 8巻3号 '64年7月 ￥1,300
第6回神経化学懇話会特集号
- 8巻4号 '64年11月 ￥1,000
視床—構造・機能・臨床

7巻1号までおよび7巻3, 4号は品切れになっています。

65年3月 第9巻 第1号 1,000円

螢光抗体法と Virus 性脳脊髄炎

（第5回神経病理懇話会）

- 日本脳炎の病理発生……………草野 信 男
狂犬病……………大谷 杉 士
ポリオ（急性灰白髄炎）……………内田 信 之
単純性ヘルペス脳炎と螢光抗体法—
新生マウスの実験感染を中心と
して……………山本 達也・他

【Special Lecture】

- Organic Mercurial Encephalopathy
—An Experimental Electron
Microscope Study—……W. Jann Brown et al.
Discussion ……………Noritsugu Mukai

【神経病理的研究】

- Gargoylism 脳の電子顕微鏡的研究…内村 祐之・他
硬膜外圧迫時の猫脳皮質の電子顕微
鏡的研究—特にステロイドの効

- 果について……………岡田 耕坪・他
一酸化炭素中毒完全間歇型の1剖検
例……………吉田 哲雄・他
非間歇型遷延一酸化炭素中毒症の1
剖検例……………飯塚 礼二・他
超軟X線による人体の血管構築(動
脈および静脈)について……………山村 武夫・他
著明な脳血管病変を合併した肝脳疾
患類癥瘕型を疑わせる1剖検例…小田 雅也・他
両側側頭葉の軟化を示した1例……………高畑 直彦・他
ミオクロースてんかん脳内小体の構
造と組織化学……………難波 益之
興味ある組織像を呈した Glioma 1
例の報告およびその組織培養所
見……………景山 直樹・他
Meningothelial Meningioma の電顕
像……………石田 陽一・他
Infantile Neuroaxonal Dystrophy
(Seitelberger's Disease) の1
例……………諏訪 紀夫・他
Infantile Subacute Necrotizing
Encephalopathy with Predilec-
tion for the Brain Stem:
Report of a Case……………Hideo Namiki
Heidenhain 病の1例について……………辻山 義光・他
多数の壊死巣を伴った亜急性汎脳脊
髄炎の1剖検例……………大塚 良作・他
静脈周囲脳炎の形を示した1剖検例…猪瀬 正・他

【学会記録】

第5回神経病理懇話会記録

【原著】

- 入院手術前に急死した脳腫瘍症例の
臨床病理学的研究……………横山 蒼
'65年7月 第9巻 第1号 1,000円

【特集Ⅰ】代謝性神経疾患

- 代謝異常による神経疾患研究の現況…里吉 営二郎
フェニルアラニン, チロジンの代謝
異常症……………塚田 裕三・他
ヒスチジン, トリプトファンおよび
プロリンの代謝異常と神経障害…柿本 泰男
その他のアミノ酸代謝異常と中枢神
経障害……………多田 啓也
糖質代謝障害による筋疾患……………里吉 営二郎・他
低血糖症と神経障害……………丸山 博
ビリルビン代謝異常と神経障害……………馬場 一雄

- Porphyrin 症……………宇尾野公義・他
進行性筋ジストロフィー症骨格筋に
おける myoglobin の異常……………三好 和夫・他

【特集Ⅱ】ミオパチーの疫学と臨床

- 日本におけるミオパチーの疫学的綜
括……………勝木 司馬之助
周期性四肢麻痺自験43症例の臨床
的分析……………沖中 重雄・他
周期性四肢麻痺の臨床—特にカリウ
ムとの関連……………板原 克哉
Thyrotoxic myopathy に関する二,
三の問題……………里吉 営二郎
病的骨格筋とミオグロビン……………天児 民和・他
多発性筋炎ならびに近接疾患の診断
および病因について……………吉川 政己・他
多発性筋炎の筋生検所見……………祖父江逸郎・他
横紋筋アレルギーの実験的研究……………上村 紀元・他
多発性筋炎症候群……………黒岩 義五郎
進行性筋ジストロフィー症に関する
研究……………三好 和夫・他
進行性筋ジストロフィー症に関する
二, 三の知見……………杉田 秀夫
新潟県におけるミオパチーの疫学お
よびその臨床……………室根 郁男・他
先天性ミオパチーの臨床……………高津 忠夫・他
Dystrophic arthrogryposis syndrome
の同胞例について……………室根 郁男・他
討 論

【古典のページ】

- 古典のページ発足にあたって……………萬年 甫
大脳の電氣的興奮性について—1870
年……………Gustav T. Fritsch u. Eduard Hitzig
萬年 甫(訳)

'65年9月 第9巻 第3号 1,000円

第7回神経化学懇話会特集号

- 【巻頭言】……………中 脩三
【シンポジウムⅠ 脳の構成物質】
脳組織における ribonuclease inhi-
bitor の存在とその精製の試み…間瀬 桂吉・他
牛脳より抽出される生物学的活性ポ
リペプチド……………片岡 喜由・他
牛脳中の酸性ペプチド(Ⅰ)……………柿本 泰男・他
牛脳中の酸性ペプチド(Ⅱ)……………金沢 彰・他

チロシン水酸化酵素—脳および交感
神経分布臓器に特異なカテコ
ルアミン生成酵素……………永 津 俊 治

【シンポジウム II 神経系病態の生化学】

白鼠および猿による実験的フェニー
ルケトン尿症の研究……………平野 修助・他
実験的 porphyrin 症の神経化学的
研究……………中尾 喜久・他
マウス脳室内注入法より見た痙攣誘
発とイオン—特に Ca イオンと
の関係……………喜多富太郎・他
各種痙攣パターンの局所神経化学的
研究……………融 道男・他
ミオクロソス小体の超微細構造とミ
オクロソステんかんに関する臨
床生化学的研究……………難 波 益 之
黒内障性白痴脳の脂質の分析と組織
化学……………猪瀬 正・他
Biochemistry of Multiple Sclerosis ……C.M. Plum

【特別講演】

Phenylketonuria; The Pathogenetic
Problems of a Molecular Disease
Affecting the Nervous System…W.Eugene Knox
Histamine and the Nervous System,
including Original Studies on His-
tamine Formation and its Inhi-
bition……………W.G. Clark

【一般演題】

神経疾患に関する免疫化学的研究……有岡 巖・他
Near-freezing method による脳部
位別アセチルコリン定量法……………高 橋 良
神経終末—新分離法とNa-K ATPase
活性の存在……………黒川 正則・他
脳白質の細胞分画知見……………加藤 尚彦・他
脳のイノシタイドとそれへの ^{32}P 組
入れについて……………林 浩平・他
脳切片におけるアミノ酸の能動輸送
—特に GABA 取り込みの局所
的特徴について……………中村 陸郎・他
白鼠摘出頸部交感神経節のアミノ酸
代謝の研究……………永田 豊・他
 C^{14} -グルコースを用いたネコ脳のア
ミノ酸タンパク代謝の研究……………大森文太郎・他
肝臓酵素の活性調節と視床下部 (II)
—特にその神経性機構の解析に
ついて……………嶋津 孝・他
マウスの部分脳における NAD の確

認と Hydrazine 2 HCl の影響…斎藤 章二・他
脳腫瘍の診断における乳酸脱水素酵
素 Isozyme ……………千ヶ崎裕夫・他
X線照射の脳蛋白質代謝ならびに脳
組織呼吸におよぼす影響……………原 隆夫・他
脳の核酸におよぼす tricyano-amino-
propene の影響……………中 脩三・他
慢性覚醒剤中毒マウスの脳クレアチ
ン燃酸, アデニンスクレオチド
の変動……………大 須 賀 恒 夫

【閉会の辞】

第7回神経化学懇話会を終つて……………佐 野 勇

【古典のページ】

老年期の特異な症例について—1911
年—……………Alois Alzheimer
吉岡愛智郎(訳)
Alois Alzheimer について……………吉 岡 愛 智 郎

【原 著】

脳外傷および脳腫脹の生化学的研究
—特にミトコンドリアの機能的
変化を中心に……………荒木 千里・他
Myopathy の筋電図について ……………室根 郁男・他
'65年12月 第9巻 第4号 1,000円

神経シンポジウム

【開会の辞】……………荒 木 正 哉

【シンポジウム I. 螢光抗体法と神経組織】

螢光抗体法からみたマウスの実験的
ヘルペス脳炎……………山本 達也・他
実験的狂犬病—新生児マウスにおけ
る発生病理……………大 谷 杉 士
人工リボ蛋白抗原を組織化学に応用
する試み……………山川 民夫・他

【シンポジウム II. 代謝性神経疾患】

神経筋疾患の組織化学……………宇 尾 野 公 義
中枢神経系のカルミン陽性物質の動
態—肝脳疾患における糖原代謝
の問題によせて……………小田 雅也・他
神経組織におけるグリコーゲン代謝
の組織化学……………武 内 忠 男
実験的高アンモニア血症におけるグ
リア核の態度……………諏訪 紀夫・他

【シンポジウム III. 髄鞘形成と二次変性】

組織培養法による髄鞘形成および維
持時の酵素組織化学的研究……………米 沢 猛
髄鞘形成とグリア……………中沢 恒幸・他

中枢二次変性の電子顕微鏡的研究

一軸索および髄鞘の変化……………谷 栄 一

神経線維の変化と酵素の分析……………熊 本 哲 三

【シンポジウム IV. 神経組織の細胞内顆粒】

脳内におけるカテコラミンの含有

顆粒……………清 水 信 夫

脳 subcellar units の生化学的研究……………植 村 慶 一

興奮伝達の形態学的背景……………内 蘭 耕 二

分離神経終末の研究……………黒 川 正 則

末梢神経における伝達物質顆粒の分

離の試み……………片岡 喜由・他

神経分泌……………佐野 豊・他

神経シンポジウムを終わって……………白 木 博 次

【原 著】

門脈外科領域における肝性脳症の臨

床的ならびに実験的研究：第1

編 臨床的研究……………豊 島 範 夫

家族例における Wilson 病の臨床と

生化学……………福 田 一 彦

【古典のページ】

いわゆる「Horner 症候群」につい

て……………萬 年 甫・他

眼瞼下垂の一型について—1869年—…… J.F. Horner

吉岡愛智郎(訳)

’66年3月 第10巻 第1号 1,000円

脳のシンポジウム

【開会の辞】……………本 川 弘 一

【主題 脳研究の方法論をめぐって】

線 維 結 合……………草 間 敏 夫

脳細胞研究の新しい方法……………勝 木 保 次

脳の生化学的研究……………塚 田 裕 三

神経病理学的研究の主方向について

の2, 3の考察……………白 木 博 次

精神医学の科学的基礎としての行動

研究……………臺 弘

情報工学から見た脳の機能……………南 雲 仁 一

【主題 ニューロンをめぐって】

シナプスの電子顕微鏡的構造……………浜 清

神経細胞の測量……………萬 年 甫

シナプスの伝達物質……………竹 内 昭

視床ニューロンの活動様式……………中 浜 博・他

【主題 視床下部をめぐって】

視床下部の線維連絡……………伴 忠 康

視床下部と摂食行動……………大 村 裕

視床下部と性機能……………小林 隆・他

視床下部と情動行動……………中 尾 弘 之

【主題 睡眠をめぐって】

睡眠のポリグラフィ的研究……………大熊 輝雄・他

睡眠における外側膝状体の反応性……………岩 間 吉 也

睡眠と遠心機能……………久 保 田 競

ナルコレプシーの脳波学的研究—逆

説睡眠に関連して……………金子 仁郎・他

低級脂酸の臨床的応用……………山村 秀夫・他

【原 著】

門脈外科領域における肝性脳症の臨

床的ならびに実験的研究 第2

編 実験的研究……………豊 島 範 夫

【古典のページ】

ゴルヂについて……………萬 年 甫

ニューロン説—理論と事実—……………Camillo Golgi

萬年 甫(訳)

’66年7月 第10巻 第2号 1,000円

第8回神経化学懇話会

序にかえて……………塚 田 裕 三

【一般演題および討論】

脳内アミノ酸代謝に及ぼすフェニー

ルアラニンの影響……………野口 鉄也・他

Infusion Method による脳アミノ

酸・蛋白代謝の研究……………渡 辺 昌 祐

幼若ラッテ脳単離核における蛋白合

成……………間 瀬 桂 吉

脳の細胞核の分離と DNA の抽出……………森 浩一・他

家兎摘出網膜でのアミノ酸および核

酸の代謝……………塚 田 裕 三・他

白鼠摘出交感神経節のアミノ酸輸送

と活動電位……………永 田 豊・他

慢性覚醒剤中毒マウスの脳 ATPase

について……………大須賀恒夫・他

マウス自発運動量と脳内カテコル

アミン……………亀 山 勉・他

脳アセチルコリンエステラーゼの量

的分布差および細胞学的局在部

位に及ぼす電気ショックとスト

レスの効果……………福 田 哲 雄・他

脳ミトコンドリアの ADP 呼吸調節

およびミトコンドリア内 PN の

酸化還元に及ぼす Mg イオン

等の影響……………岩 本 省 司・他

脳ミトコンドリアの分離調整法につ

- いて……………瀬田喜一郎・他
 脳における NAD (DPN) の生合成
 とその代謝回転について……………出口 武夫・他
 脳における NAD 代謝の特異性—と
 くに肝臓との比較において……………川合 仁・他
 自律神経系と肝の糖質代謝……………嶋津 孝・他
 脳脂質に関する研究—第1報: ニワ
 トリの脳の成熟過程における脂
 質および脂酸の推移……………相沢 豊三・他
 神経成長促進因子 Nerve Growth
 Promoting Factor (NGF) の
 研究(その2)……………中沢 恒幸・他
 脳 LDH isozymes の研究……………伊藤 齊・他
 髄液の酸塩基平衡に関する研究……………田崎 義昭・他

【Special Lectures and Discussions】

- Protein Specificity and Neuronal
 Function ……………F.O. Schmitt
 Neurochemical Studies in Subcel-
 lular Fractions of the Brain …E. De Robertis
 Neurochemical Correlates of
 Behavior ……………M.H. Aprison
 The Effect of Psychotropic Drugs
 on the Metabolism of Cerebral
 Monoamines ……………A. Pletscher
 The Interaction of Injected Reser-

- pine and Dihydroxyphenylala-
 nine or D-Amphetamine on
 Electrophysiological and Beha-
 vioral Responses in a Condi-
 tioned Approach Situation in
 the Cat……………K.F. Killam et al.
 Trends in Developmental Neuro-
 chemistry……………J.P. Schade
 Enzymatic Basis for the Active
 Transport of Na and K across
 the Cell Membrane ……………J.C. Skou

【第6回神経病理学会】

- 神経病理研究の回顧と将来の展望……………王 丸 勇
 発癌物質による腫瘍生成過程に見ら
 れるウイルス様小体について……………生 田 房 弘
 摘出脳腫瘍細胞内に観察された多角
 結晶様構造……………谷 栄 一
 一般演題(1)~(73)抄録・討論

【古典のページ】

- カハールについて……………萬 年 甫
 ニューロンの構造と結合
 ……………サンチャゴ・ラモニ・カハール
 萬年 甫(訳)

あとがき

秋の学会シーズンも終り、あとひと月で新しい年を迎える。来年は医学会総会をひかえ、はなばなしい研究成果の発表、ディスカッションに、いちだんの学問の発展が望まれる年である。

本号では、脳特定研究班、脳研連主催の「脳のシンポジウム」を特集した。脳・中枢神経全域から選ばれたテーマに、基礎-臨床各分野からのアプローチが行なわれ、活発な意見交換がなされたことは、きわめて意義深

いものと思われる。この「脳」特定研究班は、来年度からさらに「脳障害」特定研究班として、3年間活動をつづける由で、本領域のいつその進歩と発展の上に、まことに慶ばしいことである。

次号(10巻4号)では特集として「記憶」および'66年度神経病理学会をとりあげる。なお明年度は、11巻1号で特集「いたみ」、2号で「日本脳炎」を予定している。ご期待いただきたい。(編集室記)

投稿規定

- 1) 原稿は横書き、平仮名を用い新かなづかい。かならず原稿用紙を用いること。
- 2) 欧文名は原則として原語で書き、度量衡の単位はmm, cm, cc, dl, mg, g, kgなどと記すこと。
- 3) 原著にはタイプで10行以内の欧文 abstract をつけること。また題名、氏名、所属はかならず欧文を要する。
- 4) 発表は欧文でもよいが、この場合はあらかじめ編

- 集室に連絡のこと。なお、和文抄録(400字詰1枚程度)添付のこと。
- 5) 原稿枚数40枚、写真版・図表など10枚以内とする。超過の場合は実費を請求する。
- 6) 掲載の分には掲載誌および別冊50部を贈呈する。
- 7) 採否は編集委員会で決定する。
- 8) 原稿は東京都文京区本郷5丁目29番11号医学書院「神経研究の進歩」編集室宛送られたい。

(担当) 浦田・河野・中川・高橋